

## 沖野 耕二 さん

おきのこうじ／昭和43年生／益田市在住／大泊区出身／騎手 大賀孝司厩舎所属

### 騎手になって

—ふるさとながと。こんにちは—

私の生まれた所は、青海島です。子どもの頃は、「何でこんな田舎に生まれたんやろー」と、あまり好きになれませんでした。でも、歳をとったせいかな「なんて、のんびりとしたいい所なんだろう」と思えるようになりました。

私は、中学を卒業してすぐに、栃木県の騎手学校に入りました。初めの頃は、ホームシックと訓練の厳しさで、何度も辞めようかと思いました。でも、自分に負けてなるものかという強い意志を持って、毎日を送ってきました。騎手になって、勝負の厳しさをつくづく痛感しました。勝った時の嬉しさ、負けた時の悔しさ、なんともやり甲斐のある仕事です。

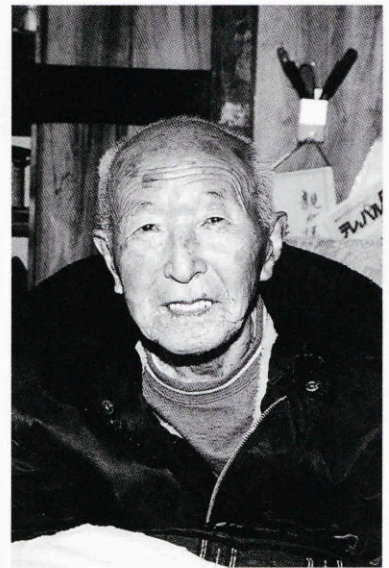
これからも努力を惜しまず、

よい成績が残せるよう頑張りたいと思います。また最近、益田競馬の売り上げが落ちていて、益田に來られることがあれば、ぜひ寄ってください。故郷の人の応援が、何よりも心の励みになります。益田の沖野ではなく、長門の沖野として頑張りたいと思いますので応援よろしくお願いします。



### 苦を苦にせず

—達者です—



## 丸茂 寛治 さん

まるもかんじ／97歳／祇園町区

明治37年生まれの97歳。金子みすゞさんとは、1歳違いの幼友達だったという。「お互いに、テルちゃん、丸ちゃんと呼び合っていましたよ。彼女はおとなしいけど、不言実行型で信念を持った人でした。彼女は読書、私はスポーツ好きと正反対でしたが、どういう訳かうまが合っただけ。修学旅行の前と一緒にいる坊主を作ったり、友達と一緒にカルタをしたり。カルタは彼女が一番でした。そういう一歩一歩に山登りをしたこともありましたが」と思い出を話す顔はとても懐かしそう。

金子みすゞが話題になりだしてからは、いろいろな人が話を聞きに来るようになった。先日

子ども達に話することもある。丸茂さんは、昭和2年に運動具店を開いた。奥さんと二人三脚、「確かに苦勞をしましたが、苦を苦にしないをモットーに頑張ってきました」と。奥さんを亡くしてからは一人暮らしだが、週5回のデイサービスと、朝晩は近所に住む息子さんが食事の世話をしてくれる。「子ども達には、今の自分があるのは回りの人の支えがあればこそだと言ってきました。今私もそれを実感しています」

